２０２１年度
クラスコメント

ちっち組

【健康】

基本的生活習慣と言われている食事、睡眠、排泄、着脱、清潔。健康で安全な生活を作り出す土台を培うために、まずは心と体が健康であることが大切です。喜びや悲しみなど様々な思いを表現しながら、思い切り遊んだり、友達や大人と心を通わせたりしながら、心身共に安心して過ごせている姿を見ると、子どもたちの成長を感じ嬉しく思います。

食事：食べることが大好きなちっちさんは、食事の時間は楽しみの一つでもあります。入園した頃はミルクを飲んだり離乳食をもくもくと食べていた子どもたちも、今ではスプーンやフォークを使って食べたり、「おかわり！」とお皿を持ち上げてアピールしたり友達と顔を見合わせて笑い合ったりと楽しい雰囲気の中で食事をしています。「にんじん　あった」の友達の声を聞いて“ぼくも（わたしも）あったよ！”と友達の真似をして食材を探す姿も♪みんなで食べるごはんの時間は幸せですね。

睡眠：美味しい昼食を食べておなかも満たされた子どもたちはウトウトとだんだん夢の中へ…。当時は、お昼寝の時間は寂しくて泣いてしまったり抱っこで眠っていたお友達も、今では遊びや生活を通してお友達や大人と過ごす時間を楽しくなり、そして信頼関係を築き、今では安心して眠れるようになりました。眠る前、一人ひとりが安心して眠れるよう童謡を口ずさんだり、触れ合いの時間を大切に関わっています。その中でも子どもたちは“いっぽんばし～こちょこちょ”がお気に入り♪しっかり眠れて心も体もスッキリしたのか、自らひょこっと顔をあげ、“起きたよ～”と教えてくれる満面の笑みは、私たちを安心させてくれます。

子どもたちが安心で安定した生活を過ごせてけるよう、心と体の両方が満たされる環境を今後も作っていきたいと考えています。

【人間関係】

入園した頃は、初めての場所で知らない友だちや大人に囲まれて戸惑っている様子だったちっちさんでしたが、友だちや先生と関係を築く中で次第に世界が広がっていく様子が見られました。少しずつ時間が経つにつれて沢山の人と関わって、時には「可愛いね」「一緒に遊ぼう」と言ってくれるお手伝いで来てくれた年上の子どもたちや、いつでもほんの少しだけ先でお見本になってくれるぐんぐんさんの存在が、人間関係を学んでいる真っ只中の子どもたちにとって良い刺激となっていました。そして、気持ちを受け止めてもらったり共感してもらうことで、心が通い合う楽しさや喜びを感じる経験を積み重ねることができました。

私たち大人の役割は、そうした経験を子どもたちがしている時にちょっと立ち止まって気持ちに目を向けてみる。一緒に感じて考えてみる。そのプロセスを大切にすることだと思っています。最初に出会った「社会」であり大きな「家族」でもある保育園がそうした経験を支える場として、今の時期にしっかりと子どもたちの力を育ててあげたいと思います。

【環境】

ちっちさんにとってこの一年は初めてだらけの時間でしたね。初めての保育園でお友だちや先生に出会い、色々な物事に触れて、その中で様々なことを体験し味わってきました。お部屋、散歩先での探索活動では自分の好きな所や好きなものを見つけて先生や友だちに教えてくれる時のキラキラした目が印象的でした。大好きな新幹線、電車、道端に咲いている花や木の実、いつも散歩の途中でご挨拶してくれるボタン屋さん、船から手を振ってくれる船頭さん等、身の回りには沢山の素敵な物や人で囲まれています。季節が変わればその変化も楽しむことができました。春には桜、夏には初めての水遊び、秋は紅葉した葉っぱや姫リンゴ集め、冬は東京では珍しい雪遊びもテラスで体験することができました。そうした経験を通じて身の回りにある環境が生活の場として馴染んで楽しみの幅もどんどん広がっていきました。

また、環境の一つである「人的環境」として大切なのがぐんぐんさんの存在です。毎日自然と友だちの姿を目にしているので、大人が教えなくても自分たちで色々なことができるようになっていました。散歩の準備をしたり、食器を片付けてみたり、ズボンを自分で履こうとしたり、いつの間にか自ら取り組んでいました。ちっちさんの観察力、真似する力にはいつも驚かされます！そうした環境の中で学び合える姿、子ども同士の中で築き上げられる姿ってとっても素敵ですね。来年は次のちっちさんのお見本になる番かもしれませんね！

【言葉】

一年を通してちっちさんの言葉の発達は驚きの連続でしたね。今では、思わず笑ってしまうような言葉を言ってみたり、ごちそうさまになると“もっと食べたいよ〜！”と言っているかのように声を出して伝えてくれたりと、この一年で大人やお友達とのやりとりは随分と豊かになりました。子どもたちは言葉らしい言葉を話せるようになる前から、大人の言葉をよく理解していて、コミュニケーションを取ろうとする姿をたくさん見せてくれました。目を見つめて微笑んだり手足をバタバタと動かしたり、声を出して何かを伝えようとしたり…。それを大人が読み取り「楽しいね」「お腹空いちゃった？」「オムツ変えようね」など言葉を使った応答的な関わりをしながら子どもたちと心を通わせてきました。そんなやりとりを繰り返すうちに、今では「〇〇ちゃん（くん）！」「〇〇せんせ〜！」「やだ」「どうぞ」など色々な言葉が出るようになり、遊びの中で言葉を使ったコミュニケーションが増え、よりにぎやかな毎日を送っています。

【表現】

子どもは素直に今の気持ちを表現してくれますね。表情や声、泣き、体の動きなどで感情をありのままに表現しています。最近のちっちさんは、お友達との関わりもより一層増えてきました。友達がいる楽しさを感じているからこそ気持ちがぶつかってしまうことも度々あります。おもちゃを取り合って怒ったり、泣いたりしながらもしばらくすると「どうぞ」と譲る姿も見られるようになり、その時の二人の表情は一瞬にして笑顔になっています。時には「いや！」と言って“今は渡せないからあとでね”という気持ちをきちんと「いや」という言葉で表現できることも素敵なことですよね。様々な感情の揺れ動きをしっかりと表現し、大人に気持ちを受け止めてもらう経験の積み重ねが、“共感”になり、コミュニケーション力や言葉の獲得、人間関係にもつながっていきます。生活や遊びを通して、子どもの感性や感情をより豊かに持ち、それをありのままに表現できるような関わりや活動を大切にしていきたいですね。

ぐんぐん組

【健康】

しっかりと歩けるようになったら、走ることの面白さを感じてお部屋の中を飛び出して、ぐるぐると駆け回っていることも見られていましたね。走るだけでなく、高い所に登ってみたり、ジャンプしたり、ボールを蹴ったりと体の動きもこの１年でダイナミックになってきました。子ども達が、広い安全な場所で存分に走ること、ボール遊びなどが楽しめるように初めは小さな場所（柳森神社や美倉橋児童遊園）から始まり、後半は佐久間公園にもお散歩に行き、活動範囲を広げていけるようにしていきました。「まてまて～」「つかまえた」と追いかけたり、追いかけてもらったりしながら、友達と体を動かして遊ぶことの心地よさを感じて、お部屋に帰ってくると「おさんぽ楽しかったねぇ」という充実感に満ちたつぶやきが聞こえてくる日もありました。

たっぷりと戸外やお部屋で遊んで、「おなかすいた～」と空腹感を感じると昼食を食べられることが心と体の満足感にもつながります。子ども達が「おいしいね」「にんじんたべてみる」と自分から意欲的に楽しく食べられようにこにこ組から始まる「いっぱい」「ちょっと」を取り入れてみました。主に副菜の量を子ども達一人ひとりに「いっぱいがいい？」「ちょっとにする？」と聞いていくのですが、自分から「減らさない」「ちょっとにする」としっかりと自分の考えを伝えてくれます。（「表現」「人間関係」「言葉」の領域ともつながりますね）食事の量を調整したからといっても食べられない時も多いですが、少なく盛り付けている事で“たくさんはたべられないけど、少しなら食べられるかな”と一口食べてみたり…少しでも食べてみようと思うきっかけになっていけたらと思っています。

「これがしたいの」「自分でやる」と遊びや食事、睡眠、お着替え(身の回りのこと)など日々の生活の中で自分の気持ちを全身で表現して、自我の育ちとともに心と体が大きく成長しました。

【人間関係】

ぐんぐん組の１年で大きく育ったなぁと感じる姿のひとつは、「相手の気持ちに寄り添う・相手を信じて待つ」という姿です。例えば、今回の成長展の動画で

こんなシーンを紹介しています。片付けの時間になっても「釘刺し」のおもちゃで遊び続けているお友だちのところへ、ほかの子たちが集まってきて「もうごはんだよ、お片付けだよ」と声をかけます。でも、(最後までやりたいだろうな)と気持ちを汲んで、それぞれがちゃんとまわりで待っていてあげるのです。そして、最後の釘を刺し終えると、「おーしーまいっ」と片付けを手伝い始めるのです。これは、すごいですね。(片付けの時間だけど、でも、ここまではやりたいだろうな)と想像する力がついているんですね。同じような姿が生活の色んな場面で見られるようになっています。

「人間関係」の育ちとは、相手の気持ちへの「想像力」でもあると思います。もちろんそこにいくまでには、思い切り自己主張しあって、ぶつかって、葛藤して……一人ひとり、長い道のりがあります。自己主張も大切な力です。「自分は！自分が！」それをたくさん経験してきたからこそ、次のステップ「自分と相手」という関係につながっているのだと思います。とは言っても、まだまだ、けんかも絶えないけれど、ひとつ一つがこれからの成長の糧となっていくのでしょう。ゆっくりじっくり、時にはちょっと後戻りしながら…だけど、着実に歩みを進めている子どもたちです。にこにこ組になると、そうした友だち関係がますます深まり、多様になっていきます。楽しみですね。

【環境】

「これ、なあに？」「なんでこれするの？」と大人にたくさん質問していたぐんぐん組さん。子ども達にとっては身近なところに不思議がいっぱいあります。歩いてお散歩に行くと見えてくるマンホールの桜の絵に気付き、桜探しが始まります。芝生のふわふわの道を見つけるとそこの道を歩きたがって、コンクリートの固い道との感覚の違いを楽しんでいる様子でした。季節によって変わる草花や虫たちに立ち止まって、じっと観察したりと大人にとっては何気ないことも子ども達にとって外の世界はたくさんの発見があるのですね。

電車が通ると座り込んで眺めては、しばらく動かないこともありました。没頭するくらい好きな物があるって素敵だなぁと思いました。そうしていくうちに、「きいろは、総武線！」「はやぶさだ～」といつの間にか電車の名前を覚えていました。また、公園へ行く途中に出会ったおそば屋さんでは、いつも「なにを切っているんですか？」と尋ねる子どもたち。初めは、通る時に「おはようございます」と挨拶をしていたのですが、ある時、おそば屋さんが玉ねぎを切っているのを見せてくれたことときっかけに子ども達の中で「今日は何を切っているのかなぁ？」と興味を持つようになっていました。保育園に戻って昼食に玉ねぎの入っ

たスープが出ると、「おそば屋さんが切っていたよねぇ」と今まで取り組んでいた食材紹介ともつながり、より身近な物になっていることを感じました。

神社へ行く時に出会うボタン屋さん、公園へ行く時に出会うおそば屋さんや工事現場の方など地域の方との出会いがあり、その中で挨拶をしたり、“食”にも興味を持ったりといろいろなことに繋がっていくことを感じた一年でした。

【言葉】

言葉が出てくると、コミュニケーションの幅がぐんと豊かになってきます。友だち同士でやりとりを楽しんだり、相談したり…。表情や仕草だけでなく、自分の気持ちやイメージを言葉で伝えられるようになったことで、より関係性が深まっているようです。お友だちが泣いていると、「〇〇がいいの？」と気持ちを聞き取ってあげたり、「〇〇したいんだって～」とその子にかわって大人に伝えたくれたり…。「言葉」は、自分の気持ちを伝えるためのものだけでなく、自分と相手、そして相手と相手をつなぐものにもなっています。「人間関係」とも深く絡み合っている分野ですね。

遊びの中でも「言葉」によってイメージを伝え合い、盛り上がっていく姿があります。「うきわで泳ごう」「サメがきちゃうから逃げよ～」先日は海の中ごっこが楽しそうでしたよ。なにげないひと言から、イメージを共有して遊びが広がっています。

【表現】

子どもたちと過ごしていると、こんなに素直に、自分の気持ちを表現できる姿はとても魅力的だなぁと感じます。一緒に歌を歌ったり、みんなで笑い合ったり、思いっきり泣いたり怒ったり…ひとりぼっちで過ごしていたら、こんなに色々な表現は生まれてこないでしょうから、子ども同士の関わり合いによってその姿が引き出されていくようにも見えます。

ぐんぐん組の時期は、自我の育ちが大きい１年です。イヤイヤと泣いたり怒ったり、混沌とした感情を思い切り吐き出すことができるのも、この時期ならでは。

また、同じ「泣く」という行為でも、悲しくて泣いているのか、怒って泣いているのか、悔しくて泣いているのか…その時々によって違います。そうした経験を繰り返しながら、その自分の気持ちに気付いたり、相手の気持ちを読み取った

りする力も、一人ひとりの中で少しずつ育ってきているようにも思います。

そして、おたのしみ会でご覧いただいたとおり、ぐんぐんの子たちは歌うことが大好きです。楽しい気持ちは歌に乗せて♪楽しいと自然と体も動き出す…こころと体がつながって、それぞれの「表現」となっているのですね。

にこにこ組

【健康】

このクラスの育ちの姿として、基本的生活習慣の自立は大きな特徴ですが、この一年でぐんと自分で出来ることが増えました。これは、出来たことがすごいのではなく、自分でやろうとする意欲が出てきたことにとても成長を感じるのです。

まずは、食事。「いっぱい・ちょっと」が始まり、少しずつ自分で食べられる物や量を理解し、苦手だったものにも食べてみようと挑戦しようとする姿が出てきました。好き嫌いが多いことや偏食に悩んでいた保護者の方も少なくなかったと思います。どうしても見た目で判断しがちで、中々挑戦することも難しかったのですが、楽しい雰囲気の中でみんなで顔を見合わせて食事をする中で、お皿がピカピカになる喜びを感じたり、友だちの「食べてみたら美味しかった！」という姿から「食べてみよう！」とする姿が出てきて、その体験をする中で色々な物に挑戦する姿が増えてきました。また、スプーンやフォークも上手に使えるようになり、お皿を持って食べることや食事のルールも、友だち同士で確認し合いながら身に付いてきました。

続いては、睡眠。先生のトントンや添い寝がなくても、布団の上でゴロゴロしているうちに一人で入眠出来る子が増えてきました。進級への期待が高まってくると、「お人形がなくても寝られるよ！」「一人で寝られる！」と自ら布団に入っていく子も増え、午前中にたくさん体を動かすことで、睡眠のリズムも確立してきたように感じます。

衣服の着脱に関しては、ロッカーから服を出し、汚れた服を汚れ物入れにしまいに行く。自分で新しい服を着る。この一連の流れが自然と身に付き、清潔の感覚が育ってきているように感じます。また、「着る」「脱ぐ」が出来るようになっただけでなく、気持ち悪さを感じた時（濡れたときや汚れたとき）や気温の変化に伴って、自ら着替えを出来るようになってき

ました。
排泄の自立に関しては、身体の発達と大いに関係していることから、今年度は体を動かす機会をたくさん取り入れることに力を入れ、晴れている日には出来るだけお散歩に出かけるようにしました。佐久間公園や和泉公園への行き来も歩ける程の体力がつき、脚力や体幹もしっかり育ってきたように感じます。年度の始め、オムツにいっぱいおしっこが出ていた状態から、トイレに興味を持ち始め、トイレでの成功経験を重ねることで、自信がつき、オムツが外れていきました。また、友だちがお兄さんお姉さんパンツを履いているのを見て憧れを持ち、挑戦する姿も多く見れらました。

【人間関係】
今までの一人あそびから、友だちに興味を示し、関わる中で友だちと関わる楽しさを知り、大人と子どもの関係から、子ども同士での関係がぐんと増えてきました。また、その中でも集団を意識するようになったことで、今まで出会うことのなかった遊びの中でのルール、例えば順番を待つことや遊具の使い方を通して集団を意識して生活する場面が多くなりました。相手のことや気持ちを考える他者理解の力も成長し、我慢することが出来るようになったり、相手の気持ちに寄り添う姿も増え、思いやりの気持ちも育ってきました。友だちが困っていたら助けてあげたり、みんなで協力する姿も見られ、楽しさや喜びを共有し、更に笑顔の増えた一年だったと思います。

【環境】
朝夕の年上の子・年下の子との関わりだけでなく、毎週水曜日のすいすい組のお手伝い保育や夕方のお手伝い保育等、異年齢での関わりの中で多くの刺激があった一年だったと思います。やってもらって嬉しかったことを小さい子にしてあげたり、優しく接する姿、お兄さんお姉さんのカッコイイ姿を見て、憧れを持ち、自分でやってみようとする姿等、たくさんの力がついたと思います。
遊びでは、夢中になって遊べるものや遊びが発展していく環境を日々考

え、その時々に合わせてお部屋の環境を変えたりもしました。後半は、ルールのある遊びも出来るようになり、散歩先では鬼ごっこやかくれんぼをみんなで楽しむことが出来るようになりました。また、色々な生き物に触れたり、植物集めをしたり、生き物や植物が大好きなにこにこさん。お部屋で飼っていたカブトムシや金魚のお世話が大好きで、危険生物の図鑑も大人気でした。毎日観察しながら、身近な生き物に触れることの楽しさを味わったり、思いやりの気持ちを持ったり、不思議さに心動かされる経験の中で好奇心や探求心を培ってきました。

【言葉】

語彙力の増加に伴って、友だちとのコミュニケーションが深まり、更に関係性が深まっていきました。自分の思いをうまく伝えられず、手が出てしまったり、イヤイヤが強かったイヤイヤ期を乗り越え、自分の思いを言葉で伝えられるようになってきました。家庭での出来事や自分の好きな事、楽しかったことや嬉しかったこと等、喜怒哀楽を言葉で表現し、伝えあう姿が多くなってきました。例えば、ごっこ遊びをするときも、「どうぞ」「ありがとう」の一言ずつのやりとりから、「いらっしゃいませ！どれがいいですか？」「いっぱいですか？ちょっとですか？」「お会計〇〇円です！ありがとうございました！」等、言葉のやりとりも細かくなり、おままごとだけでなく、お医者さんごっこや保育園ごっこ、家族ごっこ等、様々な設定を想定し、遊びに取り入れるようになりました。

【表現】

子どもたちは遊びの中で、自分のイメージしたものを平面、立体物の作品、あるいはごっこ遊びとして表現します。そして、成長と共に作品の内容や、遊び方に変化が表れます。

今年は、ウクレレやタンバリン等、身近に音楽を感じ、表現して楽しめるようにと楽器ゾーンをつくりました。また、行事ごとの製作でも『鯉のぼりマラカス』や『豆マラカス』等、みんなの大好きな楽器や音楽を多く取り入れました。「〇〇ひいて～」とリクエストすると、即興でピアノやギ

ターを弾いてくれる坪井先生。季節の歌や流行りの歌をみんなで歌ったり、実際にピアノを弾いてみたり、にこにこ音楽隊、それぞれが自分を表現する姿が多く見られました。音楽だけでなく、大好きなシンカリオンやプリンセスになりきったり、ジスターやブロックでの作品もよりダイナミックな作品になってきました。それぞれが様々な形で自分を表現することで、様々なシチュエーションを考えるようになり、協同的な遊びも増え、友だちとの関わりも自然と増えてきました。

わいわい組

【健康】

朝から、元気に遊ぶ身体を作ろうと室内の運動遊びや戸外活動の機会を増やし体験する時間を設けました。コンテンポラリーダンスのように、身体の内から溢れ出てくる身体の表現、無意識（気に留めていない）な自然の身体の動き（ボディーバランスや体幹）を活動を通して深め、室内でもスイング遊具などに触れる機会を持つことで今ではクライミング、綱、ブランコなどの運動遊具に挑戦できるバランスがとれる身体になってきました。 様々な運動感覚が養われることで、具体的にはトイレでの排尿感覚や排泄の自立へとつながり、食器を運ぶ際にうまくバランスが取れていなかった姿勢が保持され始め、食べこぼしや自分の身体にシミがつくといったボディーイメージ、怪我が少なくしっかりと歩くなどの力が持てるようになってきた事が大きな成長でした。（この見えない感覚へのアプローチはこれからもとても大事な点です。）

甘えん坊でやってもらう事が好きな子どもが多く、基本的な生活習慣の自立や、身支度などの自己管理といったことが疎かになっている時が多く見られましたが、それは「遊びたい」「これがしたい」という意欲にあふれている姿から出てきていました。最近はお兄さん、お姉さんになってきたんだよと意識が高くなり天真爛漫で、活発なわいわい組の良さの中に成長を感じる姿がたくさん増えてきました。

【人間関係】

クラスの人数が広がり、同世代の友達だけでなく、好きな遊びを通してそこで遊ぶ友達との関わりを沢山もつことから広がっていった友達関係。

年上のお兄さん、お姉さんが出来たことでのうれしさや、遊びの幅が広がったことでの喜びを感じ、「やってみたい」と気持ちだけ前に出て取り組むけれども、結果として、周りの友達を押しのけてしまいトラブルになる事もありました、まだまだ「自分のペース」を大事にしているために、相手に寄り添ったり、相手の意図までは分からずに、単純にうまくいかないやり取りに「苦手さ」や「こわい」といった姿など多様な経験をしています。

下半期になり、好きな友達ができ、より気持ちを通わせ合いながら過ごすようになってきた子ども達。でも、その分相手のことが解るが故に気持ちのすれ違いや上手くいかないときの印象は大きいようで、気持ちの整理が難しい姿も出てきました。ただ、大きな成長もあり、ピーステーブルの「相手の話を最後までしっかりと聞こう」「自分の気持ちを言葉で言おう」「話を聞くときは相手の顔を見よう」と話し合う場面で少しずつ自分たちだけで解決していく姿も出てきました。また、自分たちの遊びの中で「必ず友達とやる」といった一人遊びではない活動を好むようになってきており、鬼ごっこや集団遊びが盛んに繰り広げられているのは、多様な経験をして来た子ども社会の充実さが作ってきていると感じています。さらに、「お手伝い保育」をごっこ遊びのように楽しみに参加する姿が見られるようになってきました。自分を大切にする気持ちが十分に満たされた先に、人にやさしくしたり、人に喜ばれる気持ち良さに気付いていくこれからの育ちが楽しみです。

【環境】

進級したとの頃は、遊びの豊かな環境に上手く気持ちを消化しきれずに、ワクワク、どうしよう（溢れ出てくる思い）、やり放題といった意欲的な姿から始まったわいわい組。やってみて「できない～」（でもみたい）　といった心の動きが沢山ありました。新しい遊具や活動、上の子の活動に「まずは、やってみたい」と飛びつくけれども、上手くできないことが解るとおしまいにしていました。一過性の活動や単発での経験の中でも、色々と試すことを繰り返していく中で、新しい気付きや発見が少しづつ積み上げられていくと、「これはどんな風になっているのだろうか」と試行錯誤しながらじっくりと遊ぶ姿が増えてきました。最近では、「これをやりたい」という明確な見通しをもつ子どもの姿へと成長し、ゾーン選びや活動についての自分の考えをしっかりと持っているようにになってきました。

【言葉】

自分のペースを大切にでき、「こうしたい」「みて」といった自分発進の気持ちを伝えたり、逆にシュンとして、察してもらおうとしてみたり、強い口調になって、時に手が出てしまうやり取りが見られたわいわい組。　話し合いややり取りよりも自分の気持ちをありのままに「これみて」「先生、先生、先生」「ねぇ、ね

ぇー」「きてよ〜」と簡単な言葉で相手に伝えて振り向いてもらおうとしたり、集まりでは「私には関係ないからいいかなぁ〜」と聞かないとう姿もありました。生活を共に過ごしていく中で、「お約束を守ることで広がる世界」「見通しを持てることでの楽しさ」を経験することで「伝え合う事」「伝わり合う事」でより自分にとっての生活の幅が広がり、食事の席では気の合う友達との会話に時間を忘れてしまったり、好きな友達というのを意識するようになってきました。それにより、友達との関係が深まる事での言葉の変化が沢山出てきました。

【表現】

ごっこ遊びで様々な容姿に変身したり、手作りの制作物を身にまとったりと制作や言葉、動き方など様々な表現が広がっていった子ども達の姿。

ひょうきんで、有頂天で、明るい可愛らしい子どもたちのボキャブラリーには、こちらもとても和ませられました。　印象的だったのは、病院ごっこあそびの充実でした。お楽しみ会でも紹介しましたが、非接触型の検温をレジスターのバーコードリーダーでやってみたり、たくさんの子ども達が保育園で注射を打っていました。生活の経験や見て感じたことを自分でやってみたいという気持ちの表れが沢山ありました。

友達によって、活発な子、ゆっくりな子、強い口調の子、優しく慰めてくれる子、寄り添ってくれる子と自分との違いや、きれいな色、面白い形、不思議な模様と色々な自分との違いに気づく体験をした一年でした。この体験した事柄がこれからどんな風に広げていくのか楽しみです。

らんらん組

【健康】

保育所保育指針の健康の領域では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」と記されています。らんらん組の子どもたちはこの一年間で、日常生活を送るうえでの基本的な生活習慣は、ほとんど自立し、身の回りのことを自分自身で行うことができるようになりました。戸外遊びや運動ゾーンでは、安全に遊ぶためにはどうしたら良いのか考えながら取り組み、一人ひとりの安全への意識が高まっていきました。運動面では、室内での運動遊びや遊具を用いて、体幹を養ってきました。戸外遊びでは、様々な種類の鬼ごっこがブームになりました。室内や戸外での様々な運動遊びを通して、思い切り走ったり、よけたり、体のバランスをとったりする中で、自分の体を思い通りに動かす力を身につけていきました。様々な動きを身につけたことで、自ら挑戦する意欲が芽生え、友だちと一緒に体を動かす楽しさを日々味わっています。

食事の面では、自分で食べる量を選択する中で、今までは食べていなかったものにも、友だちの美味しそうに食べる姿に刺激を受け、「ちょっと食べてみようかな」と挑戦する姿もあります。「友だちと一緒に食べたい」、「一緒に食べると美味しいね」と、子どもたちは食事の時間をとても楽しみにしています。

また、「今日はお部屋でブロックをやるんだ」、「公園では鬼ごっこをやりたい」といった目当てを持ちながら登園する姿もみられ、意欲的に遊ぶ姿からも、健康な心が育まれていることを感じます。

【人間関係】

好きな遊びを通して育まれていく仲間関係。ブロック・積み木、ラキュー、製作、ままごと…といった、自分のやりたい遊びを拠点に仲間を集め、活動をともにしてきました。その中で、子どもたち同士の仲間関係が広がり、深まっていきました。いつも一緒に活動をすることにより、友だちのことがよく分かるようになっていきます。それゆえ、友だちと自分を比べて、自信をもったり、反対に気落ちしたりと、友だちを通して自分を見つめ、振り返る力がついてきました。

らんらん組の一年間、友だちと日々一緒に過ごす中で、自分の主張と相手の主張がぶつかり合い、けんかが生じることがたくさんありました。けんかは、生きていくうえでとても大切な経験で、けんかを繰り返す中で育まれる力がたくさんあります。けんかにおいて、互いに自分の主張をぶつけ合う中で、相手の気持ちに気付くこと、また、自分の意図と相手の意図のずれに気付き、それを調節していく力が身についていきます。なかなかそれが難しいときには、すいすい組の憧れの友だちの言葉がよく響きます。自分の思いを聞いてもらう中で、相手の立場や気持ちを想像していく姿も増えてきました。

友だちが困っていたら助けてあげる、友だちのことを待ってあげる、友だちにやり方を教えてあげる、このような、友だちに喜ばれることを誇りに思っているらんらん組の子どもたち。たくさんの葛藤がありますが、友だちに支えられ、自分自身でも乗り越えながら、一人ひとり成長しています。

【環境】

一人ひとりが自分のやりたいことを選択できる環境のもと、意欲的に遊ぶ姿、生活を送る姿が見られます。自分がやりたい遊びを中心に選択する中で、その空間にいた友だちとのやり取りが生まれ、教わったり、教えてあげたり、人間関係も広がっていきます。また、ごっこ遊びの中で、バスを作ったり、電車を作ったり…ストーリーに合わせて子どもたち自身で環境を作り出す場面も多く見られました。

一つひとつのことにじっくりと取り組むことが好きならんらん組の子どもたち。製作、ラキュー、ブロック積み木など、自分の作りたいイメージをもち、それを形にしようと試行錯誤する姿があります。身近にそれらが得意な友だちがいる環境で、インスピレーションを受け、友だちのアイディアを取り入れたり、教えてもらったりしています。また、「一緒に作ろう！」と友だちと協力して一つの作品作りに真剣に取り組む中で、完成した時の達成感と充実感、そして何より友だちとの絆を深めています。
戸外活動では、身近な動植物と触れ合い、興味関心を広げていきました。ダンゴムシやアリを夢中になって捕まえたり、観察したり、園で育ててみようとする姿がありました。観察や昆虫のお世話をする中で、その特徴に詳しくなったり、生き物を大切にしようとする心も育まれていきました。

【言葉】

らんらん組の時期、「言葉」が思考の手段としてそれまで以上に働き始めます。そのため、自分の対話の相手だった他者の言葉が、もう一人の自分になり、心の中で語りかけるようになる「自己内対話」が活発になります。この自己内対話が、気持ちを立て直したり、我慢することを支え、「これをするのは苦手だけど、頑張ってやってみるか…」「うがいするのは面倒くさいけど、風邪をひくのは嫌だからするか…」など、なぜそれが大切なのかを理解し、納得できれば、嫌なことでもやってみようとするようになります。らんらん組の子どもたちは、お家の方のことば、友だちのこと

ば、保育者のことば…生活の中で伝えられてきた様々な言葉や自分の経験の中で感じたこと、学んできたことを、自分の心の中で語りかけながら、自分自身を支えているのだと感じます。

また、友だちとのトラブル場面において、言葉で一所懸命に自分の思いを伝える姿があります。“自分の気持ちを相手に分かってほしい”その気持ちを、きちんと言葉にして、真剣に伝える姿に胸が熱くなります。自分の気持ちを聞いてもらう中で、相手の言葉にも真剣に向き合おうとする心を、たくさんの経験を通して育んでいます。

【表現】

昔話や絵本、紙芝居、好きなテレビアニメといった、様々な文化に触れ、想像の世界を広げながら、仲間やクラスの友だちと楽しむ姿があります。らんらん組の子どもたちは想像の世界が大好きです。プリンセスになったり、お母さんになったり、ネコになったり…子どもたちは様々にイメージを広げ、友だちとイメージを共有しながら、想像の世界の中でごっこ遊びに夢中になっています。

また、製作では、一人ひとり、作りたいもののイメージを持ち、工夫して作り上げています。作品には一人ひとりの個性があふれています。
親子運動遊びの会で行った、コンテンポラリーダンスでは、一人ひとりの心の内側から湧き出てくる表現をご覧いただけたかと思います。

「表現」とひとくくりにすると、幅広く、様々なことがありますが、ごっこ遊びにおいても製作においても、運動遊びにおいても、どの活動や生活においても、子どもたちは一人ひとり、自分なりの表現をしています。この一人ひとりの表現の違いを、子どもたち同士で認め合いながら、違いを面白いと感じ合いながら生活していけるよう、見守っています。

すいすい組

【健康】

すいすい組になっての一年間で自分たちで見通しをもって過ごせるようになり、自ら生活を整えられるようになってきました。身体を動かすことが大好きな子どもたちは、登園してすぐに「運動ゾーンを開けたい！」とエネルギッシュに活動を始めています。朝から自分の身体と向き合う姿が多くみられ、綱に上がるために腕の力、クライミングでは握る力や足で支える力、トランポリンでは脚力など全身の力を十分に身につけてきました。また、スイング遊具などの導入により、体幹が鍛えられた身体の使い方は、自分自身で理解しているように感じました。朝の運動により、体と同時に脳を目覚めさせ１日の活動をより活発に過ごすことに繋がっていたと思います。そして、運動ゾーンでの過ごし方は、一人ひとりが安全面に気を配る気持ちを持ち、遊ぶ前に考えられるようになってきました。忘れてしまうこともありますが、お友だち同士伝え合う力も身についています。

戸外遊びでは、さまざまな種類の鬼ごっこが盛り上がっています。集団での遊びを好むようになり、お友だちと一緒に体を動かす楽しさに充実感を得ているようです。公園に着くと、意欲的に走りまわり、鬼ごっこを楽しんでいます。最近は、縄跳びブームで目標を持って挑戦する姿があります。こうした日々の遊びや体験、子どもたちの意欲的な活動から「健康な心と体」はどんどん育っているのでしょう。

【人間関係】

人間関係の幅がぐんと広がり、より多様な友達関係を深めてきました。異年齢クラスの生活の場において、お集まり（グループごとに席に座る）、お当番活動、散歩時の手繋ぎ等で異年齢同士の関わり合いが増えた子どもたち。自分たちが一番上のお兄さん・お姉さんという立場になり、「生活」

や「遊び」の場面で知っていることや分かっていることをどう伝えたらいいのか？と一人ひとりが自分が思うやり方で関わろうと試行錯誤した関わりや、なんとか気持ちを通わせようと沢山やりとりを重ねる姿が見られるようになりました。「やってあげたい」「伝えたい」気持ちから行動したことで、「喜んでもらえた」達成感だったり、「上手くいかなかった」など難しさや葛藤を感じたりしたのではないかと思います。

また、夏のお泊まり会を通して、活動内容やメニューを決めていく話し合いでは、一人ひとりが意見を出し合い、お互いに認め合ったり、譲り合ったりする姿が見られました。なかなかすぐには決まりませんでしたが、何日も話し合いを重ねる中で、お友だちを思いやる心や我慢する心がそれぞれ育っていきました。そして、お泊まり会後には、クラスの絆が一層深まり一人ひとりが思う目標が達成できたことにより、自信がついていきました。保護者の方々も感じられたように、子どもたちはお泊まり会を機に逞しく成長をしました。

【環境】

様々な環境に出会いながら、お友だちと共に遊びを発展させ豊かにしていました。身近な動植物と触れ合い、興味関心を高めていた春と夏。戸外活動では、ダンゴムシやアリを捕まえクラスで飼い始めると、どんな環境なら育てていけるのか餌は何を食べるのか等と考えたり、調べたりと観察やお世話を楽しんでいました。カブトムシやアゲハ蝶を幼虫から育てたり、実際に自分たちで金魚を買いに行き飼い始めたり、と日々触れ合いながら、生き物を大切にしようとする心が育っていきました。

また室内活動では、運動ゾーンで固定遊具を使った遊びだけではなく、その遊具を使い競い合う遊びやオリジナルのルールを作り友だちとイメージを膨らませて楽しむ姿が多く見られました。夏のオリンピックをきっかけに、子どもたちは遊びに取り入れて遊びを発展させていたのです。気付くと役を決めて遊んだり、誰かが中心になって新たな遊びを作り始めたり、その環境のもとで自ら遊びの環境を作り出していました。

けん玉に出会った冬。誰もが始めは失敗を繰り返していましたが、何度

も練習したり、新しい技に挑戦したり…意欲的に取り組む姿が子どもたちにはありました。成功を心から喜び、また挑戦する。やる気が湧く。けん玉を通して、意欲も自信もついてきました。失敗してもいい。またやってみればいい。挑戦する心をこれからも持ち続けて欲しいなと思います。

【言葉】

お友だちや先生と日々、会話を楽しむ子どもたち。お休み中の出来事(経験や体験)だったり、自分の得意なことだったり、相手に伝える楽しさを味わっています。最近は、お昼ご飯中の会話が弾み、食事の時間を忘れてしまうほど…。お友だち同士の仲が深まっているからこそ、言葉の伝え合い(会話)が楽しいのだと思います。

すいすいミーティング(話し合い)では、自分の思いや考えを「言葉」にして伝えること、相手の話をよく聞くことを大切に子どもたちと行ってきました。劇遊びの絵本を決めるミーティングでは、「この絵本がいい」ではなく、「ロバ役をやってみたいから、この絵本がいい」と自分がこうしたいからこれがいい！と理由まで相手に伝えられるようになっていました。周りの子たちも相手の話をよく聞き受け入れる。そして、「そうだよね。どうやって決めようか？」とそんな言葉のやり取りが1時間続きました。ここでも譲り合う心や思いやる心が育ち、一人ひとりの成長を強く感じました。

わいわい組の頃から、共に生活をしてきた子どもたちは、お互いにお互いのことを理解し、この伝え方ならいいかな？時には、今はゆっくり聞いてあげようかな？と言葉を選んで話をしたり、聞いたりする姿が見られます。子どもたちの様子を見ていると、お互いの存在を認め合っていて、仲の良さを感じます。これからも自分の気持ちを素直に伝えられる仲間を大切にして欲しいなと思います。

【表現】

今までは、想像の世界のごっこ遊びを友だちとイメージを膨らませ、共有しながら遊んでいた子どもたちでしたが、仲間意識が深まった頃から、

アニメやゲームの話が好きな子たちが集まり、実際に役になりきり再現するごっこ遊びがブームとなりました。自分が思うイメージを相手に動きや言葉を使い表現すると、それを受け止めた友だちがまた、そのイメージに合う表現をする。そんなやり取りが楽しくて面白くてどんどんお互いに表現し合っていました。ひとりが作った遊びをお友だちが共有して遊びを広げていく、そこからまたイメージが膨らみ遊びが発展していく…気付くと子どもたちの世界がどんどん広がっていました。

製作では、様々な色に出会いました。色水遊びを通して、色の混ざり合う瞬間に驚き発見をし、「この色とこの色を混ぜたら…〇〇になるのかな？」「新しい色作ってみようよ」などと考えたり、試したり、お友だちに聞いてみたり…また、塗り絵を通して、「この色とこの色は合うかな？」「ここは〇〇にしよう！」と自分が描く色をイメージして完成させていました。

表現は、様々な場面で見られました。「生活や遊びの場という環境」「お友だちや先生という相手」「コンテンポラリーダンスや劇遊びという行事」など一人ひとりがいろいろな形で表現を楽しみ過ごしていました。今後もたくさんのものに出会いながら感性を豊かにして自分の思いを表現して欲しいなと思います。

調理

「食べること」は生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。「なにを」「どれだけ」食べるかというだけでなく、「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」食べるかという事が重要です。さらに食事は五感を使うので、子どもの発達にはとても重要になってきます。

【嗅覚】食べ物の匂いをかぐ。　【視覚】食べ物を見る。
【触覚】食べ物に触れる。　【聴覚】口に入れ噛んだ時の音を聞く。
【味覚】味を感じてみる。

食事という一連の流れで五感を全て使っています。保育園では年齢が上がるとクッキングをします。そこで、様々な五感を使い、更に協力することでコミュニケーション能力も育ちます。　今年度は「味わう」「咀嚼」をテーマに和食のお吸い物のお出汁２種類の食べ比べ、スティック野菜や根菜をコンスタントに提供し、ぐんぐん組では午前おやつの際かみかみ昆布を提供し咀嚼の練習や唾液の分泌を促しています。五感を使いながら一年を通し食事をしました。
誕生会ではアジア各国のメニューを昼食・おやつにて提供しました。
日頃の行事食の様子を掲示から感じ取っていただけたらと思います。
昼食で提供しているメニューのレシピもあるので、ご覧ください。

保健

子ども達の日常の手洗い、うがいはだいぶ習慣になってきています。
感染症はなくなりませんが、予防の意味は理解出来てきているように思います。

今年は、転んだ時やぶつけた時など怪我をした時に、「自分で、どこがどのような状態なのか、を表現することが出来る」ように、意識して言葉を促すようにしました。
どこでどのように起きたのか、身体の部分名、痛みや発赤、出血の有無や傷の程度など、自分で自分の身体の状態を観察し、他者に伝えられる事は、生きていく中でとても大切なスキルです。
そして、その出来事が何故起きたのかを振り返り、次は怪我をしないような行動がとれるように考える事は、怪我の予防に繋がっていきます。

らんらん、すいすいクラスになると、「どうしたの？」と聞かなくても、自発的に伝える事が出来てきました。振り返りはまだ今一つなので、今後の課題です…

大人はついこちらから声かけして判断しがちですが、
「子どもから説明する」のを聴いて受け止め対応する事、振り返りをして自分の身体を守る(大切にする)事が出来るよう、小さな時から丁寧に働きかけていきたいと思います。